

夢去りぬなどといても若者でもあるまいし、なにか？問題でもあるのか？と言われそうだ86歳だ、もう夢をいだくことはないだろう。

反対に佐藤愛子じゃあるまいし、「90歳なにが目出度い」その気持ちよく分かる。夢をいだいたというのではない。

新聞で当たりくじの番号を切り抜いて当たっていないか、自分の宝くじとみくらべて見た、なんてこっちゃ組違。もう見るのはいやになった。

億万長者のゆめは破れ、3000円から300円を引いた金額が能登半島地震被災地支援ジャンボ宝くじ・・・その残り一部が寄付になったたのだからそれはそれでいい。いいのだけれど億万長者の夢さりぬということにかわりはない。

その夢とはなんじゃいなということになる、さて、なんだろう。かみさんが言っている家が狭い私もそう思っているので、まずもう少し広い家が欲しい。それから、親戚におすそ分け。あとは株式投資をして資金を倍額にする。

大谷翔平の元通訳がやったギャンブルはやらない。

まあ、こんなところかな。

夢去りぬ 24/6//23 Hidekuro



まず夜中の頻尿の薬をもらいに行く、ここは泌尿器科予想よりはやく終えたので、次に血圧降下剤をもらうため内科に行く。ここも意外と早く終えた。だが、私には病院の新館と本館の長い廊下を一部車椅子に乗ったと言え、歩かないわけではなく、それにエレベータ、その度、歩かねばならない。

そんなわけで疲れました。どちらかといえば順番待ちで座っている方がいい、1時間や2時間がなんだ。

この病院にはこうして疲れた患者を思っか喫茶室がある。小さいがればいい。

モーニングの注文は11時までとのことモーニングを頼んで待っているとビリーボンの「浪路はるかに」が流れている。久しぶりに聞く曲だ、大好きな曲だ。

インターネットで囲碁をやっているときはアメリカン・マーチをきいている。囲碁は戦いだ、だからマーチがいい。パチンコ屋できく軍艦マーチと同じなんだろうか？それはそれでいいけれども喫茶室には似合わない。

喫茶室は静か、それでいて軽快これだ、親しみがある。

浪路はるかに 24/6/7 Hidekuro



千葉の私の知っている方は意外と新幹線に乗った経験がない。私は現役時代、仕事柄新幹線と言わず空の旅を沢山やった。

まずは、仕事の内容はどんなものかといえば、会社が研究者に研究資材を購入し、貸与しているためその資材の有無確認のために研究室を3年間に1~2度チェックに行く必要があるということで旅慣れていった。

研究者は国立大学の助手・助教授が比較的多い。助教授はいま准教授に変わっている。教授の下ではなく教授と同じように研究費がもらえるようになった。

ある研究者は研究材料に線虫を使っている。この線虫に薬剤を注入する、それも線虫は小さいのでガラスで作った特注の注射針これを顕微鏡でつかってやっていたが、それにしても針は線虫には大きすぎる。注射針からむくむくと逃げて行く様が見えた。

九州大学を訪ねたときは旅客機が校庭に着陸するかのように低空を飛んだ。飛行場が近くにあるとのこと。授業中では一時中断とのこと。

北海道大学に行ったときは気温の暑い日だった。

これが北海道ですか？というほどの暑さだった。

研究者はTシャツ、私はネクタイ。こたえる。

仕事が終わるとすぐに観光モードに切り替える。公費で観光旅行ができた。そうでないときもあったが・・・

旅行慣れ 24/5/24 Hidekuro



線虫